

海の道むなかた館長 西谷 正

## 第6回 II. 周防灘 (2) ヤマト王権の成立と前方後円墳の出現

### I はじめに

墳丘墓から前方後円墳へ



### II ヤマト王権の成立

纏向型前方後円墳から箸墓古墳へ

導水遺構—木樋の発見 延永ヤヨミ園遺跡

### III 豊（前）における前方後円墳の出現

(1) 石塚山古墳 京都郡

(2) 赤塚古墳 宇佐郡

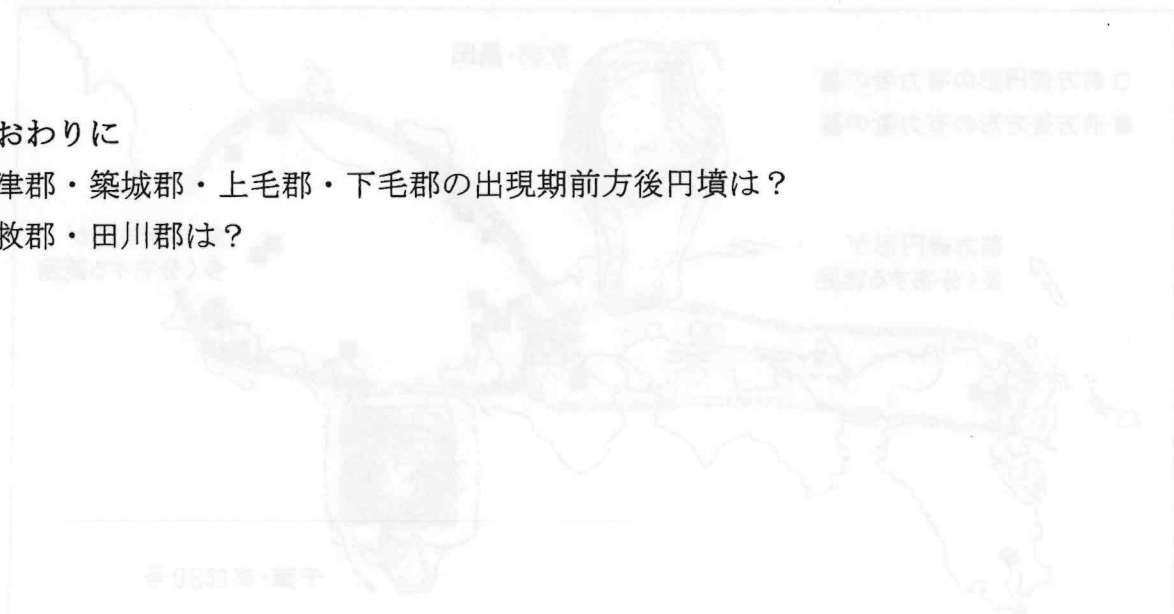
### IV 出現期前方後円墳の被葬者

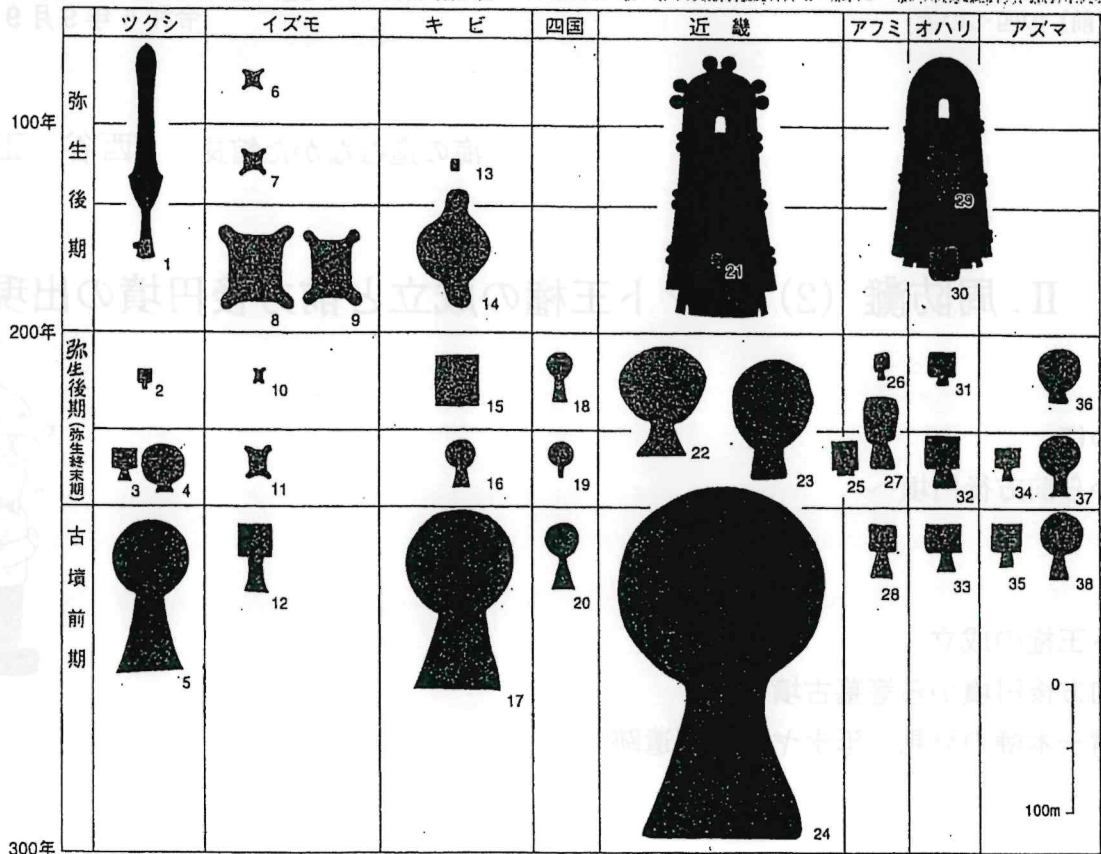
縣主と豪族の分布

### V おわりに

仲津郡・築城郡・上毛郡・下毛郡の出現期前方後円墳は？

企救郡・田川郡は？



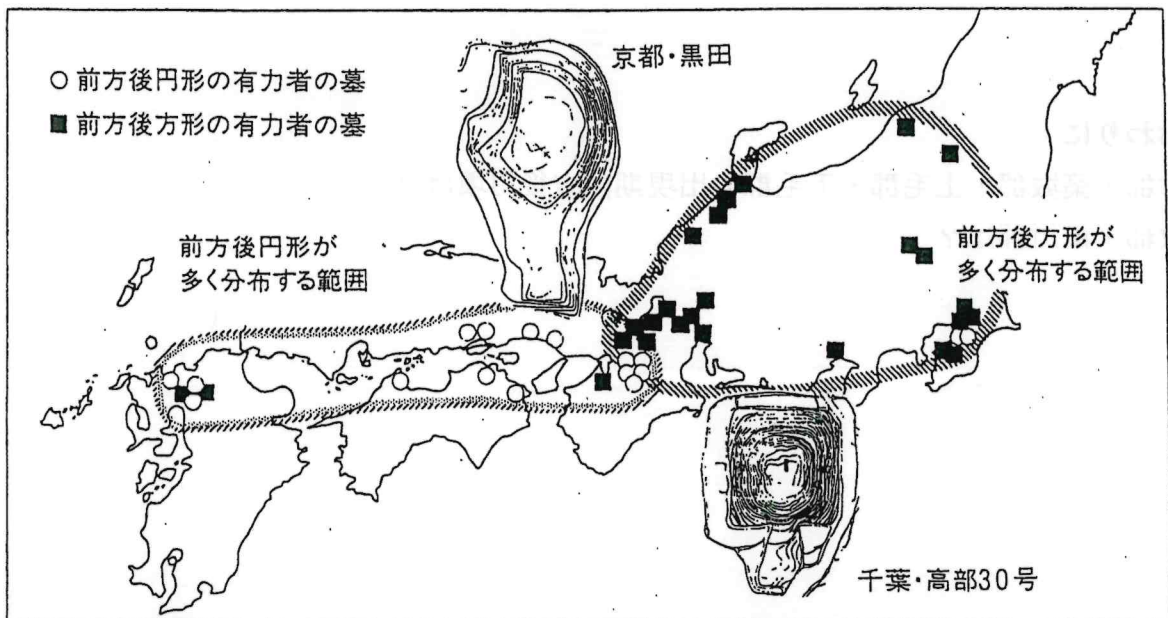


: 広形銅矛   
 : 墳丘墓   
 : 近畿式銅鐙   
 : 古墳   
 : 三遠式銅鐙

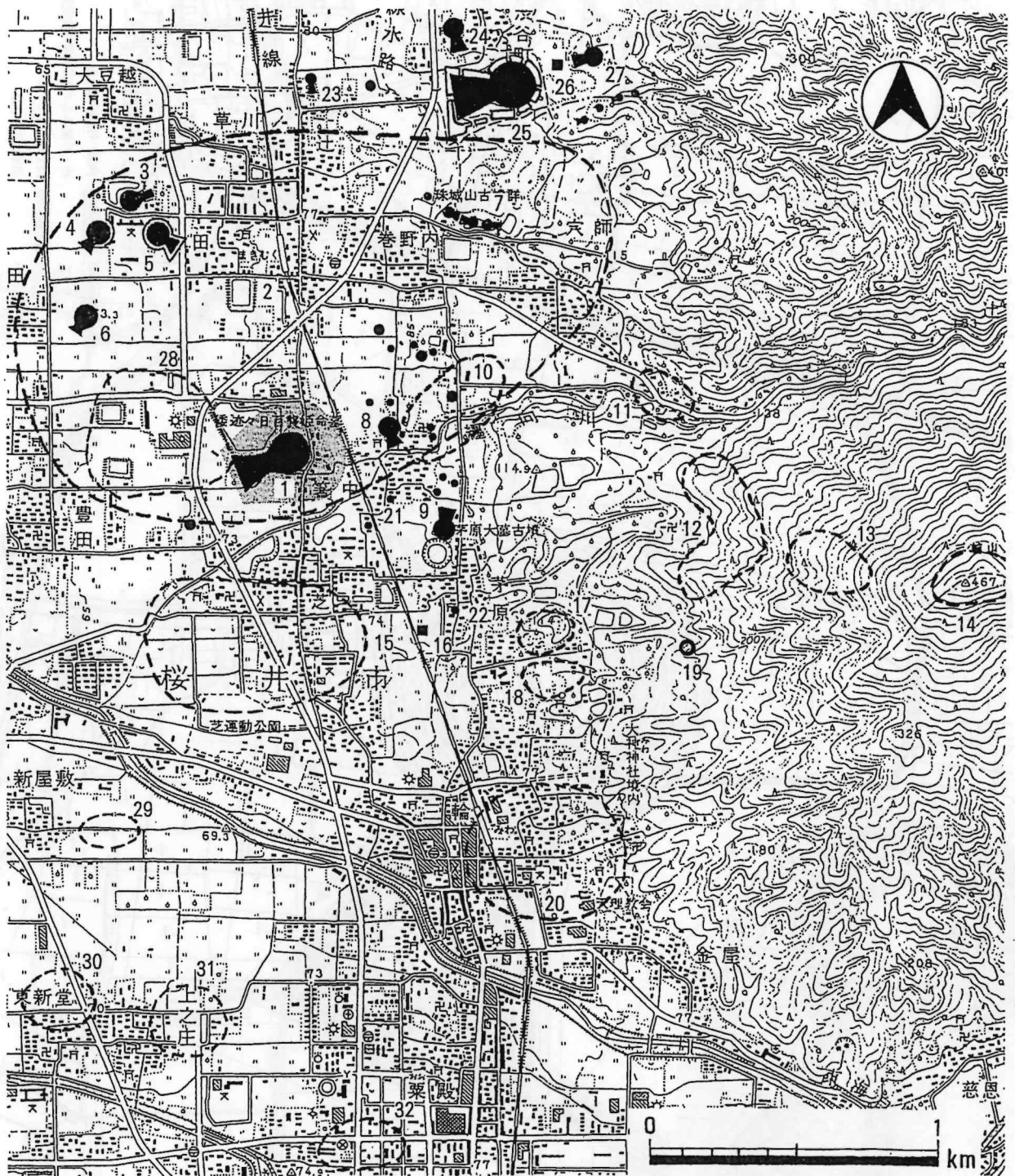
- |         |          |           |           |          |          |          |         |
|---------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|---------|
| 1. 平原   | 6. 友田    | 11. 大木権現山 | 16. 宮山    | 21. 黒石10 | 26. 法勝寺  | 31. 廻間   | 36. 神門5 |
| 2. 宮ノ前  | 7. 阿弥大寺3 | 12. 松本3   | 17. 浦間茶臼山 | 22. 石塚   | 27. 小松   | 32. 西上免  | 37. 神門4 |
| 3. 吉野ヶ里 | 8. 西桂見1  | 13. 伊予部山  | 18. 鷺尾4   | 23. ホケノ山 | 28. 冨波   | 33. 象鼻山  | 38. 神門3 |
| 4. 津古生掛 | 9. 西谷3   | 14. 楯築    | 19. 萩原1   | 24. 菅墓   | 29. 瑞龍寺山 | 34. 高部32 |         |
| 5. 石塚山  | 10. 間内越1 | 15. 鯉喰    | 20. 爺ヶ松   | 25. 芝ヶ原  | 30. 加佐美山 | 35. 高部30 |         |

墳丘墓から古墳への動向

滋賀県立安土城博物館, 2002 『共に一女子を立て一卑弥呼政権の成立』



有力者の墓の形から見た3世紀半ころの勢力関係



箸墓古墳周辺遺跡分布図

1. 箸墓古墳
2. 纏向遺跡
3. 勝山古墳
4. 矢塚古墳
5. 石塚古墳
6. 東田大塚古墳
7. 珠城山古墳群
8. ホケノ山古墳
9. 茅原大墓古墳
10. 箸中古墳
11. 車谷遺跡
12. 辺津磐座
13. 中津磐座
14. 奥津磐座
15. 芝遺跡
16. 狐塚古墳
17. 箕倉山遺跡
18. 馬場遺跡
19. 山ノ神遺跡
20. 三輪遺跡
21. 馬塚古墳
22. 弁天社古墳
23. 柳本大塚古墳
24. 上ノ山古墳
25. 渋谷向山古墳
26. 赤坂古墳
27. シウロウ塚古墳
28. 箸中西遺跡
29. 新屋敷遺跡
30. 東新堂遺跡
31. 上ノ庄遺跡
32. 粟殿遺跡

奈良県立橿原考古学研究所, 2002 『箸墓古墳周辺の調査』 奈良県文化財調査報告書 第89集





箸墓古墳に関する調査トレンチの状況と築造プランの想定 (2002年3月現在)

奈良県土糧原考古学研究所, 2002 『箸墓古墳周辺の調査』 『奈良県文化財調査報告書』 第89集



## 東の「邪馬台国」の論拠となる遺物、遺跡

箸墓古墳はじめ、前期初頭の古墳が纏向に集中しています。

列島各地からもたらされた土器が出土し、各地から人びとが集まったことがわかります。



▲箸墓古墳 遺跡の南端には箸墓古墳があり、秀麗な姿を見せています。全長約 280 メートルの前方後円墳で、遺跡内最大です。卑弥呼または皇(靈)与の墓とする説もあります。

### 纏向遺跡の土器と各地から持ち込まれた土器

古墳時代前期 3 世紀

1: 手焙り形土器 高さ 12.7 センチ、最大径 12.0 センチ

2: 小型丸底壺 3: 小型器台 4: 吉備系壺 5: 高杯

6: 北陸系壺 7: 山陰系壺 8: 直口壺 9: 東海系壺

10: 東海系壺 11: 直口壺 12~14: 支脚 15: 山陰系壺

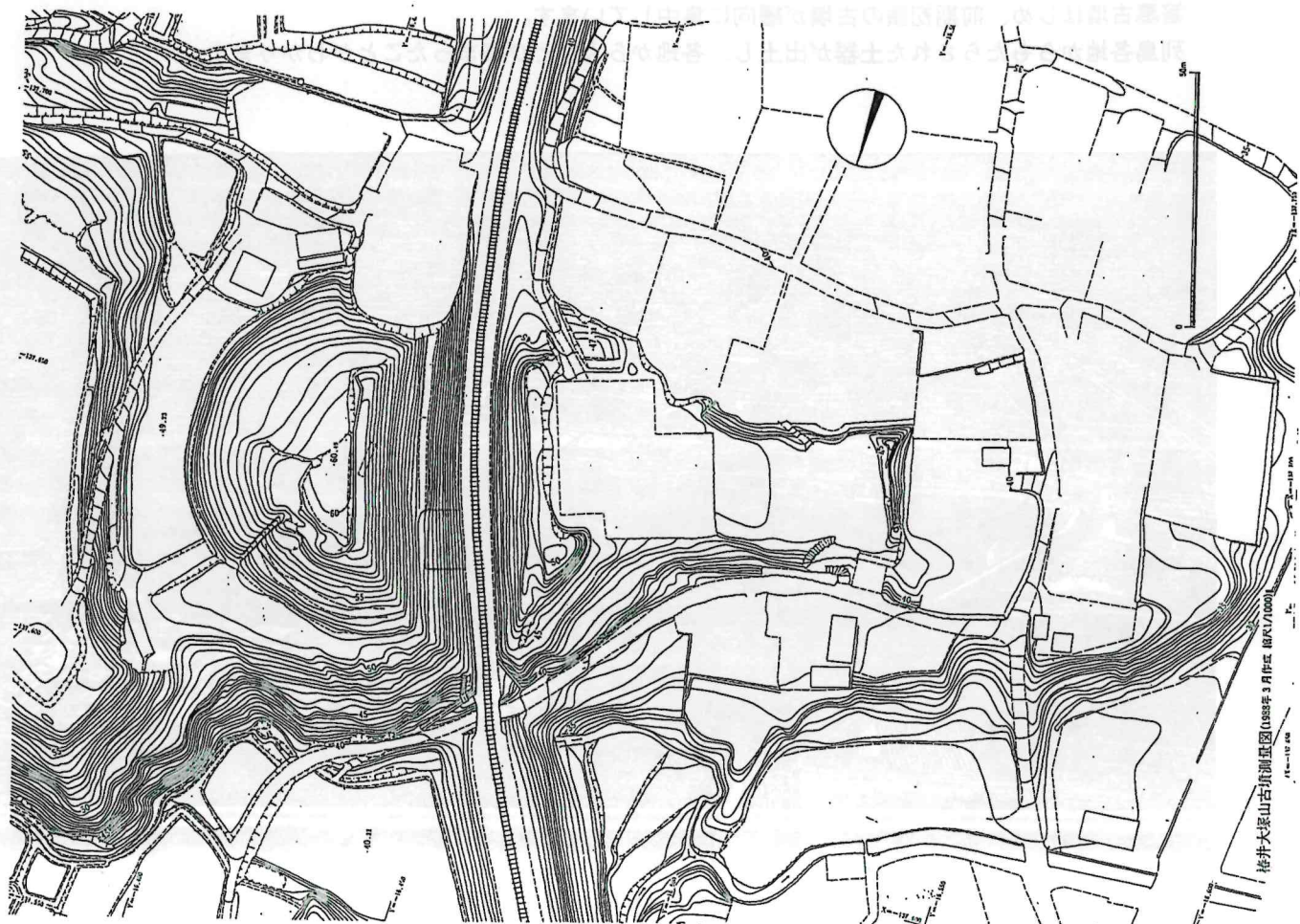
16: 吉備系壺 17: 直口壺 18: 東海系壺

纏向遺跡には在地の土器のほか、各地の土器が多く出土しています。その範囲は広く北部九州から南関東にわたります。その中でも東海地域の土器が多く見つかっています。これら各地域の土器は持ち込まれたものだけでなく、纏向遺跡で製作されたものも出土しています。古墳時代前期にこれほど多くの地域の土器が出土する遺跡はほかには見つかっておらず、当時の纏向遺跡は全国各地の人たちの集まる集落であったのでしょう。

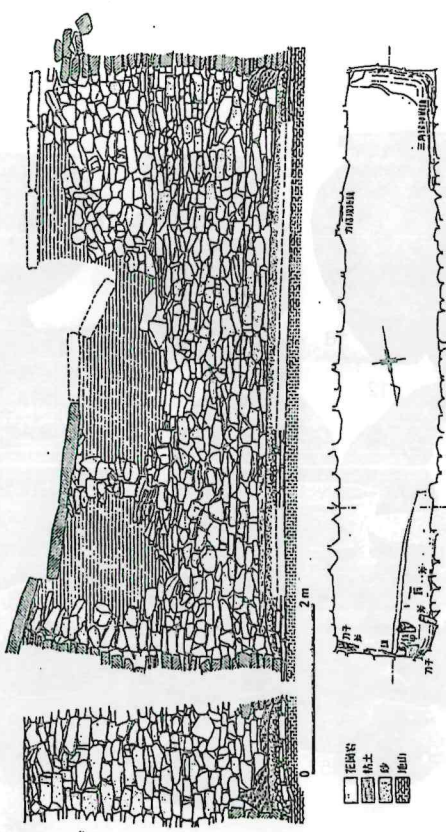
(北井利率)



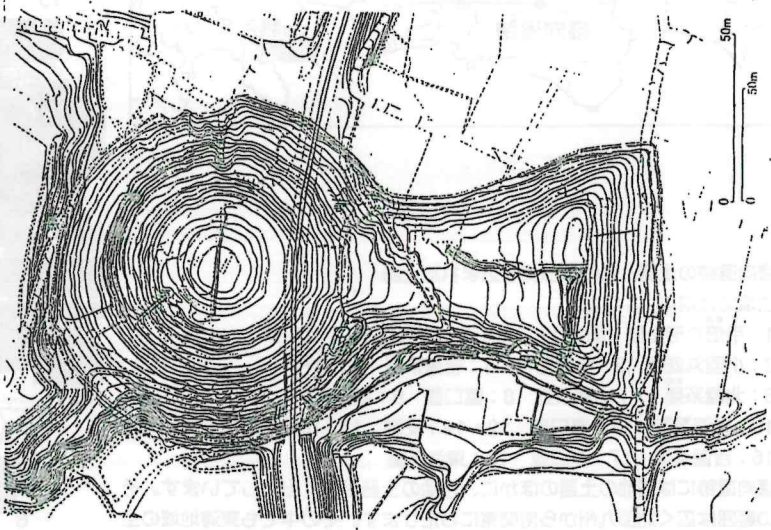




椿井大塚山古墳測図(1888年9月作成 縮尺1/1000)



椿井大塚山古墳断面式石室測図

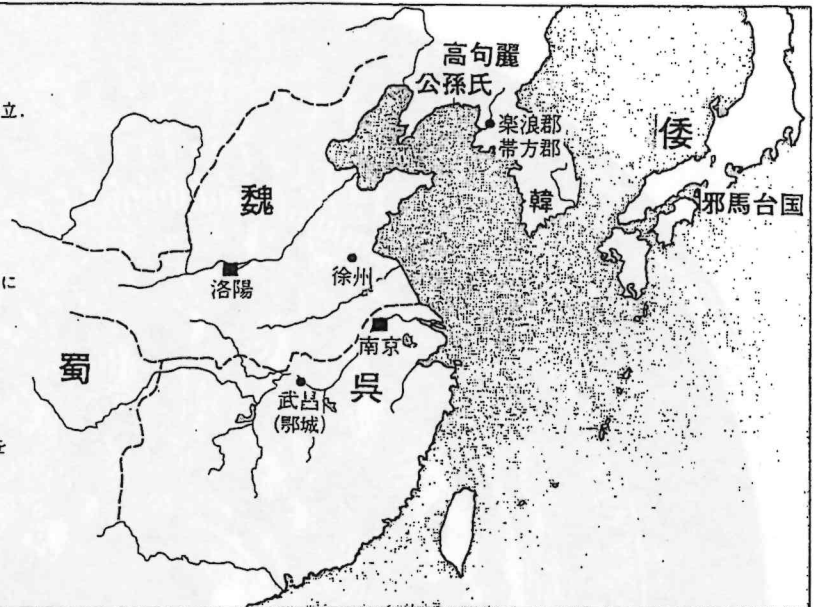


椿井大塚山古墳と菅原古墳(赤)の比較

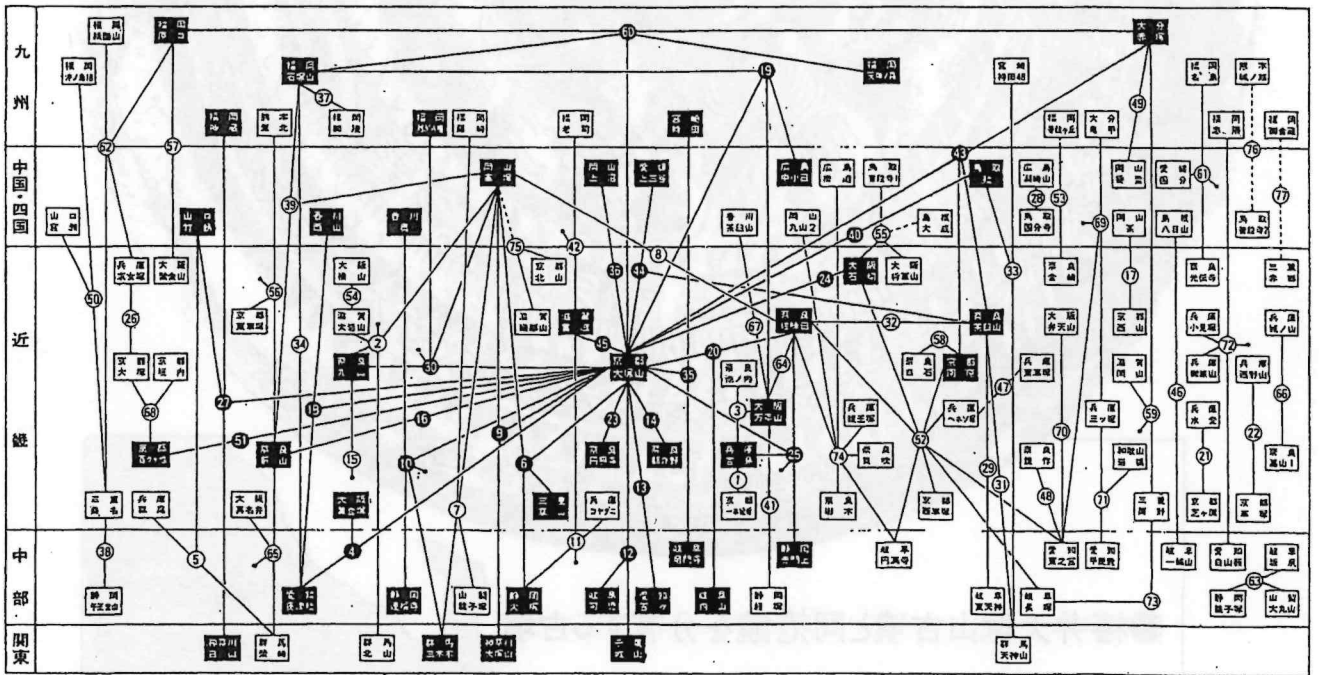
京都大学文学部考古学研究室、一九八九年 椿井大塚山古墳と菅原古墳(赤)の比較



- 180頃 倭国大乱  
卑弥呼の共立によって大乱終息。  
後漢建安中(196-220) 公孫康、楽浪郡の南に帯方郡を分立。
- 220 後漢の滅亡、魏の建国。
- 237 公孫淵、自立して燕王を称す。
- 238 魏、遼東の公孫淵を滅ぼし、楽浪・帯方郡を取める。
- 239(景初3年) 卑弥呼、魏に朝貢し、銅鏡百枚を賜わる。
- 240(正始元年) 帯方郡太守、使いを卑弥呼に遣わし、詔とともに銅鏡などを賜う
- 243 倭王、また魏に朝貢。
- 245 魏帝、詔して倭の難升米に黄幢を賜う。
- 247 卑弥呼、狗奴国との交戦を帯方郡に知らせる。
- 248頃 卑弥呼死す。男王が立つが、おさまらず、宗女の台与を女王として国ついに定まる。台与、魏に朝貢。
- 265 魏が滅び、西晋の建国。
- 266 倭、西晋に朝貢。



3世紀の東アジア



中国製三角縁神獣鏡の同範鏡分有関係 (小林行雄1987年7月12日作成)

京都大学文学部考古学研究室, 1989

『樫井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』

京都大学文学部博物館田録,

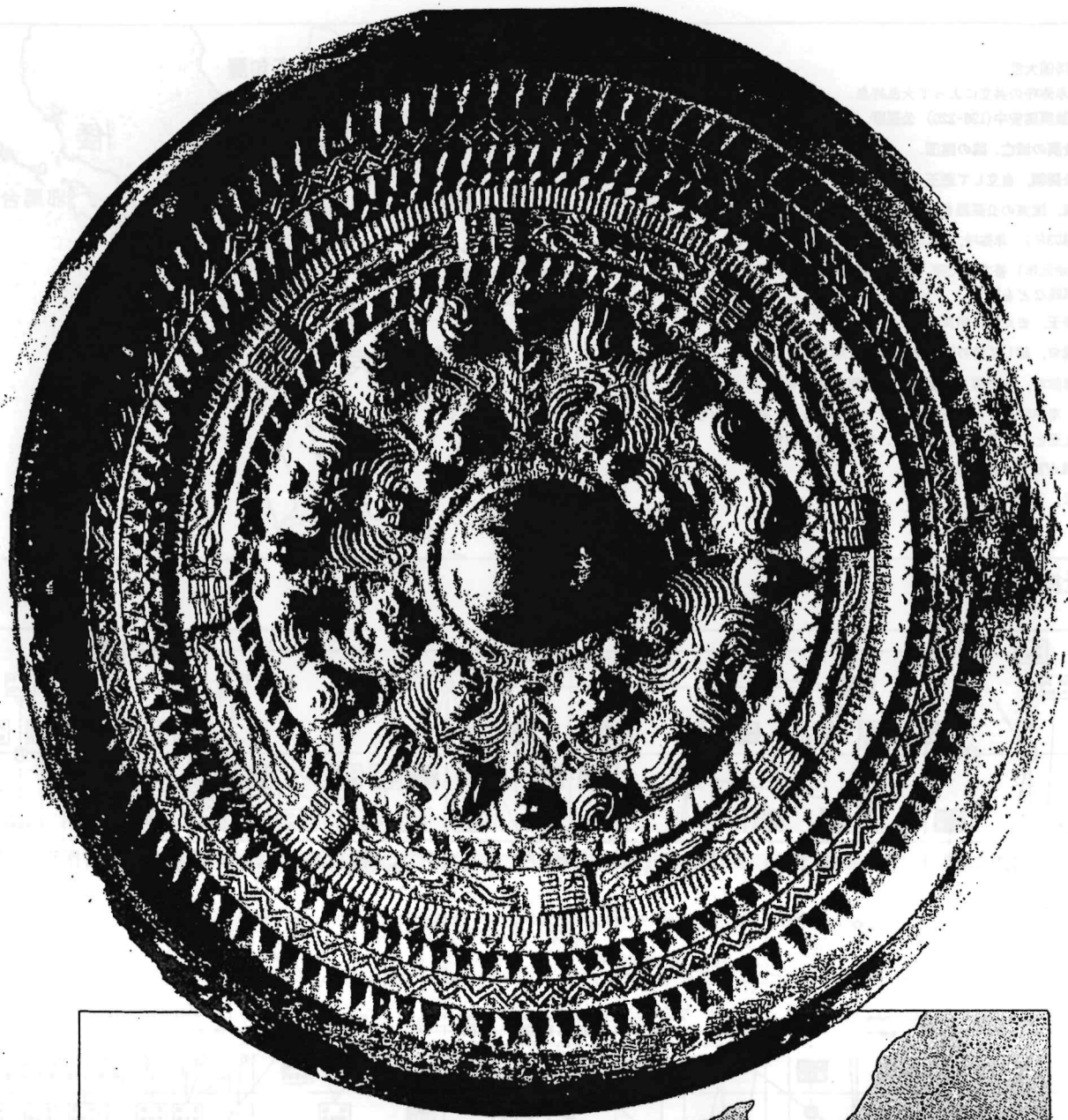
京都大学文学部

三角縁神獣鏡とは

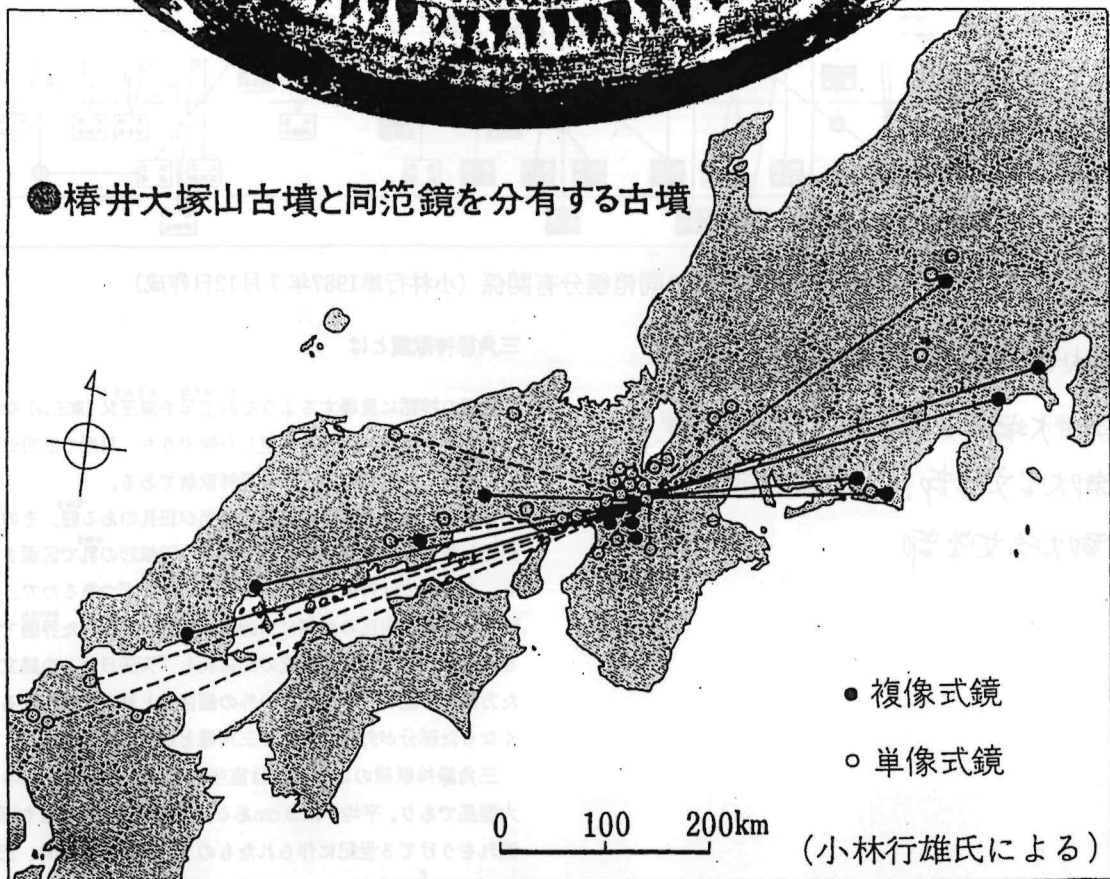
中国の神話に登場するような西王母や東王父(東王公)などの神仙や靈獣を浮彫りように表現した鏡のうち、周縁の断面が三角形状に突出した大型の鏡が三角縁神獣鏡である。

中央の半球形の突起が鈕孔のある鈕。その周囲が神像、獣像のある内区で、図像が高い円錐形の乳で区画されている。この例では神像と獣像がそれぞれ4体ずつあるので、四神四獣鏡と呼ぶ。内区の外側には鋸歯文をもつ突出した界帯で文様帯を区分し、この例では獣文の間に乳と「天王日月」の銘文をいれた方格とを配している。その外の鋸歯文と波状文からなる一段高くなった部分が外区、そして三角縁となっている。

三角縁神獣鏡のほとんどは直径が20 cmをこえるこのような大型品であり、平均が22.3 cmある。後漢時代の神獣鏡や画像鏡の流れをうけて3世紀に作られたもので、景初三年(239)、正始元年(240)など魏の年号をもつものが知られている。日本の古墳からこれまでに出土した330面ほどのうち、樫井大塚山古墳からはその約1割にあたる32面以上もの大量の三角縁神獣鏡が出土している。



● 樺井大塚山古墳と同範鏡を分有する古墳





# 交易活動の軌跡

## 東瀬戸内地方との交流

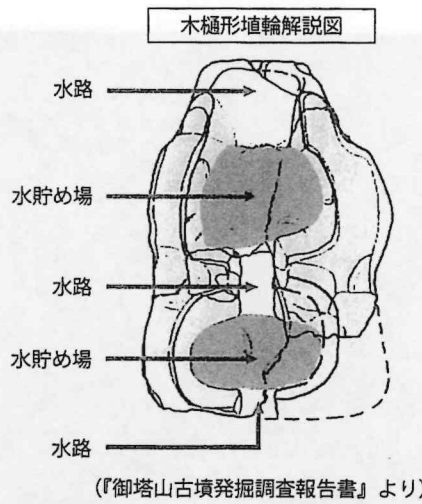
瀬戸内海で結ばれる豊前地方は、東瀬戸内の畿内や吉備地方との交流が盛んで、いち早くその文化が伝来しています。

そのことを示す数多くのものが出土していますが、Ⅲ-C区で発見された弥生時代終末から古墳時代初頭の導水施設の木樋が注目されます。奈良県纏向遺跡など畿内中心に多くの類例がありますが、九州では初めて見つかったものです。水のまつりに使った木製品と考えられています。延永ヤヨミ園遺跡では、木樋を覆う建物の柱も発見されています。古墳時代になると大阪府八尾市の心合寺山古墳から水の祭祀場を表した家形埴輪が、大分県杵築市の御塔山古墳からは木樋形埴輪が見つっています。

このほか、延永ヤヨミ園遺跡からは各地から搬入された土器も発見されています。I区 25号住居からは河内型の庄内甕、V-5区 42号住居からは東海系土器の搬入品などがあります。



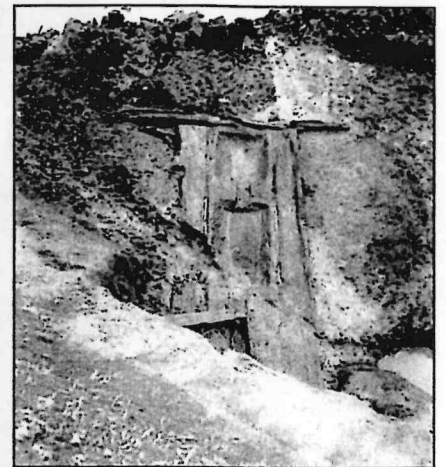
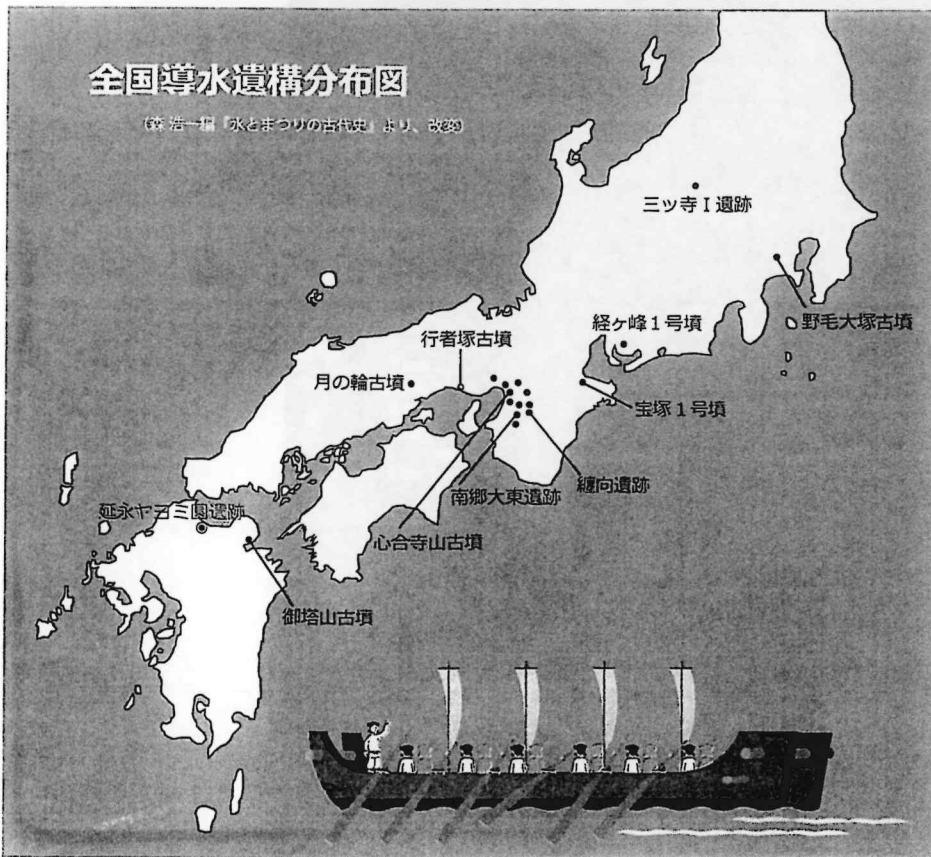
御塔山古墳出土木樋形埴輪  
[所蔵：杵築市教育委員会]



(『御塔山古墳発掘調査報告書』より)



導水施設木樋(Ⅲ-C区出土)  
[所蔵：九州歴史資料館]



木樋出土状況  
(Ⅲ-C区)  
[画像提供：九州歴史資料館]

# 石塚山古墳

(国指定史跡、福岡県荇田町)

石塚山古墳は福岡県京都郡荇田町富久町に所在する、高城山から周防灘へ延びる舌状丘陵の先端部、標高約六〇メートルの位置に築造された全長一一〇メートルを測る前方後円墳である。周辺の開發で旧観は損なわれているが、地形図等から旧地形を復元すると、海岸線が古墳のかなり近くまで迫っており、築造当時は墳頂から広く周防灘を見渡せ、また海からも古墳を望む事ができたと思われる。墳形は前方部の端部が広がる「撥形」を呈し、古式の前方後円墳の特徴を有している。内部主体は後円部の中心部分に作られた竪穴式石槨で、盜掘を受けていたためにどのような棺が納められていたかは不明であるが、寛政八年(一七九六)に七面の三角縁神獸鏡や銅鏃、大刀片、昭和六十二年(一九八七)の學術調査で鉄製甲、武器類、装身具など多くの副葬品が出土した。定型化された前方後円墳の中でも最古級で規模も大きく、豊富な副葬品から当時の有力豪族の墓である事は疑いを得ない、九州を代表する古墳の一基である。(森井)

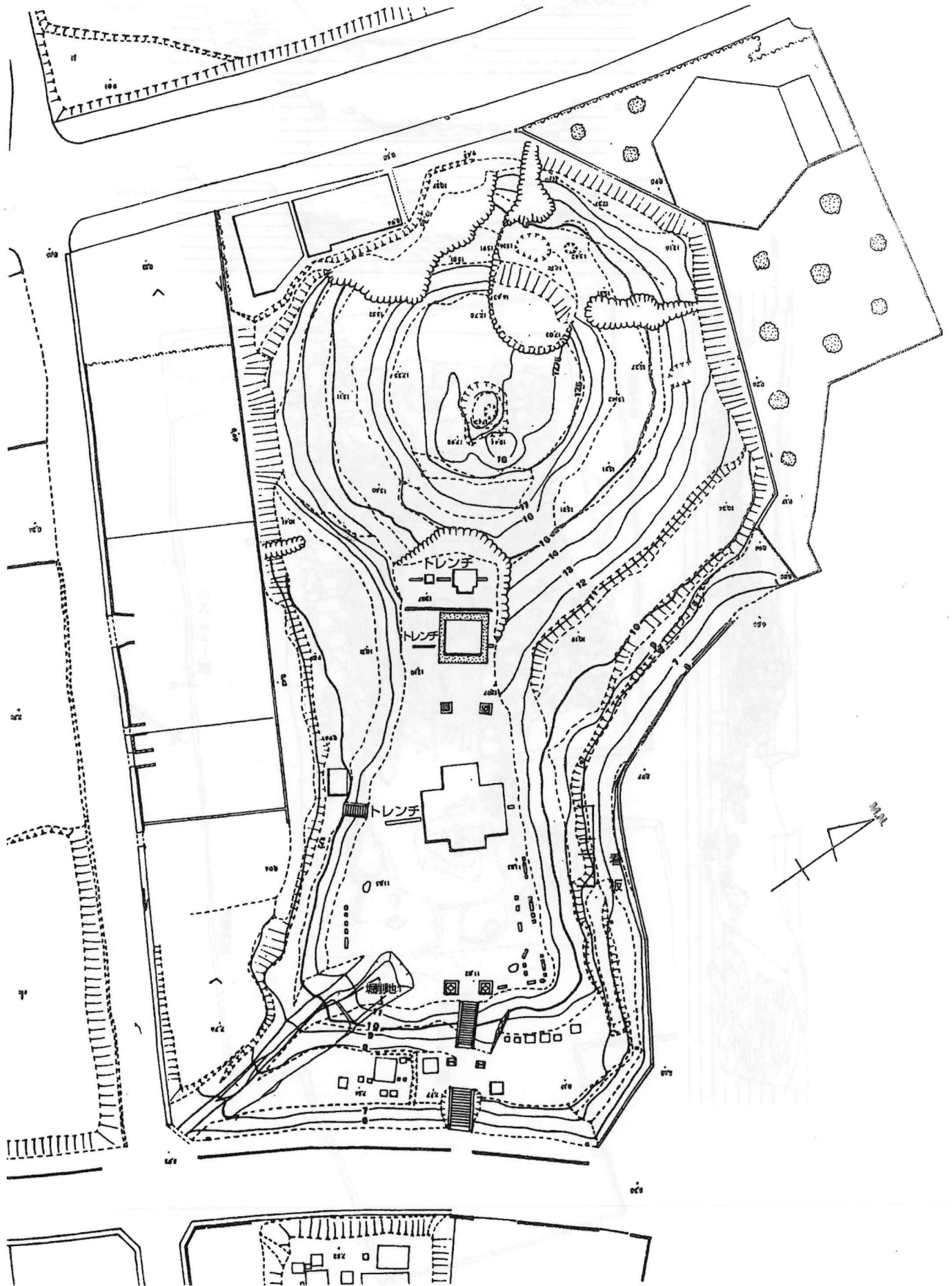


九州歴史資料館、二〇二二「特別展 京都平野と豊国の古代」

石塚山古墳 上空より 2016年撮影

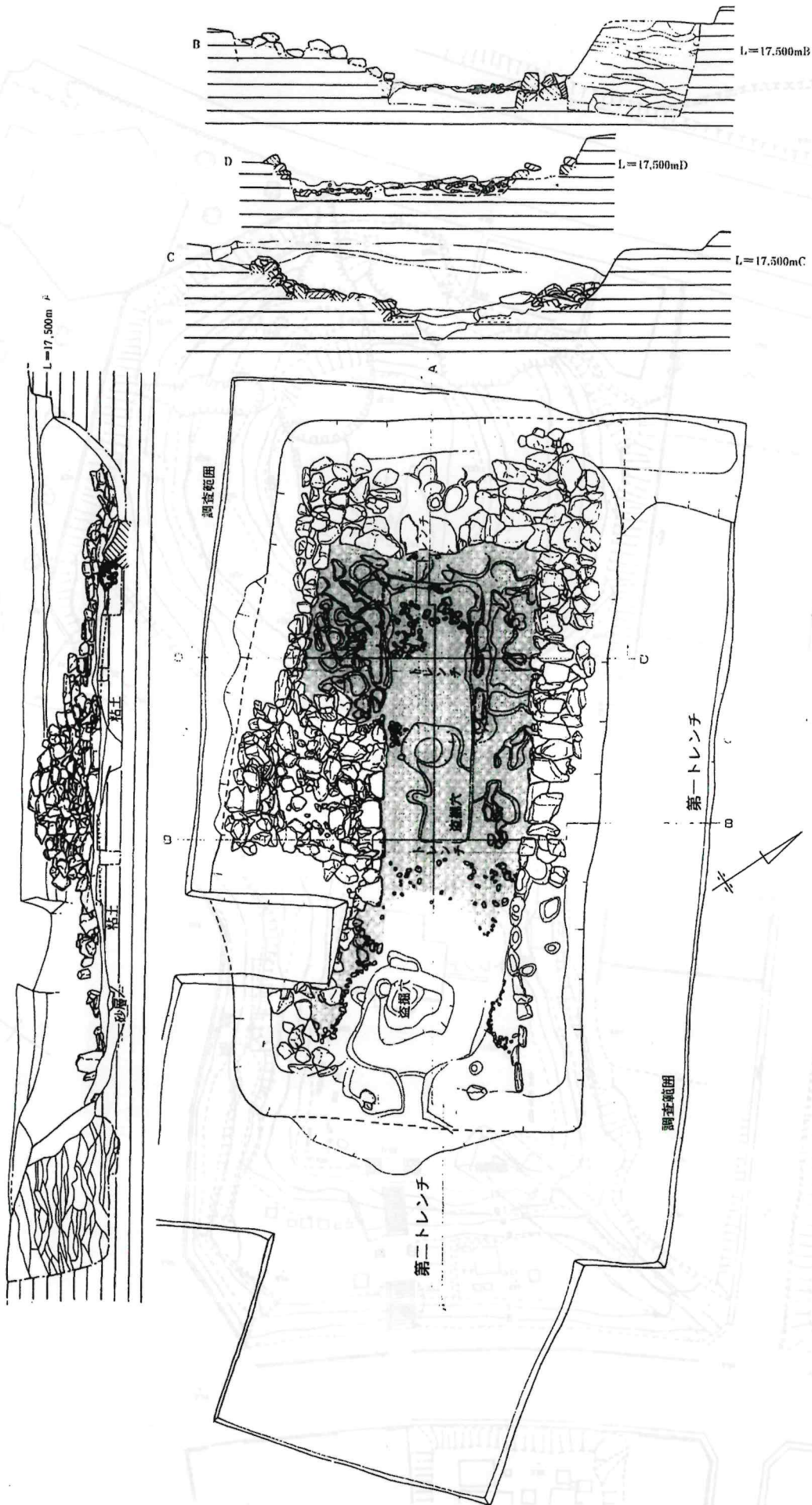
荇田町教育委員会写真提供





菟田野・かみこ郷土史研究会, 2016 『豊前 石塚山古墳 復刻版』

石塚山古墳地形測量図 (縮尺1/800)



石塚山古墳石室実測図 (縮尺1/80)

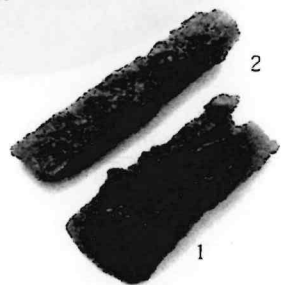
刈田町・かんた郷土史研究会, 2016 『前掲書』



菟田町指定有形文化財

鉄斧 二点

菟田町石塚山古墳出土  
古墳時代・四世紀  
福岡・菟田町教育委員会所蔵



竪穴式石槨内の攪乱土中から出土しており、副葬時の原位置は留めていない。全体に錆が回っているが、ほぼ完形の資料である。1は袋状鉄斧で断面形が長楕円を呈し、袋部が閉じない。全長一・〇センチメートルを測る。2は鑄造鉄斧で全長一四・五センチメートル。いずれの資料にも袋部に木質が残存しており、柄が着装された状態で副葬されていた事がわかる。石槨内からは他に袋状鉄斧一点と鑄造鉄斧一点、今回展示の二点と合わせ五点の鉄斧が出土している。(森井)

菟田町指定有形文化財

小札 三点

菟田町石塚山古墳出土  
古墳時代・四世紀  
福岡・菟田町教育委員会所蔵



菟田町指定有形文化財

鉄鏃 五点

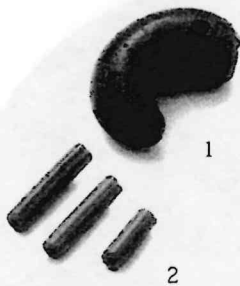
菟田町石塚山古墳出土  
古墳時代・四世紀  
福岡・菟田町教育委員会所蔵

多数の資料が出土している内、展示している資料は五点である。広根式と細根式の大きく二種類が出土している。表面に布が付着した状態で出土している個体もあり、鞆に収納された形で副葬されたと推定される。(森井)

菟田町指定有形文化財

勾玉 一点

菟田町石塚山古墳出土  
古墳時代・四世紀  
福岡・菟田町教育委員会所蔵



管玉 三点

昭和六十二年(一九八七)調査により出土した資料。勾玉は長さ一・九センチメートルで琥珀製。全体に亀裂が入り、一部欠損箇所もあるがほぼ完形の資料。管玉はいずれも碧玉製で長さ一・二〜一・七センチメートルを測る。いずれも石槨内の床面に近い位置の攪乱土からの出土で副葬時の原位置は保っていないものの、比較的近い位置からの出土と推測されている。(森井)

石槨内及び埋土から多数が出土した。石室内西北隅からまとまった形で出土しており、副葬時の位置をある程度保っていると考えられる。大きさや形状から四種類に分類されるが、今回展示しているものはその内の三種である。一部で布片が付着したままの個体もある。腰巻板と考えられる部材はなく、全て揃ってはいないが、小札の形状や大きさから雪野山古墳出土例などを参考にして革綴りに復元される。初期の鉄製短甲には、縦に長い鉄板を横方向に並べて革紐で綴じ合わせた縦剥板革綴短甲や縦長の長方形の鉄板を縦横に革紐で綴じ合わせた方形板革綴短甲、小さな魚鱗形をした鉄板を革紐で綴じ合わせた小札革綴短甲があり、本資料は小札を用いたものである。(森井)





重要文化財

三角縁獣文帯四神四獣鏡  
(四号鏡) 一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

四号鏡は直径二一・七センチメートルを測る。数片に割れた形で採集され、一部欠損するが修理時に完形に復元されている。内区には銘・獣文帯を配し、「天王」七か所、「日月」一か所の計八つの銘文を配する。四乳の間に神像四体と獣像四体を求心式に配する。「四神四獣」型式で、神像は東王父と西王母を表現する。  
同范鏡は福岡県大野城市御陵古墳から出土している。(森井)

重要文化財

三角縁獣文帯四神四獣鏡  
(五号鏡) 一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

五号鏡は直径二三・六センチメートルを測り、石塚山古墳出土の三角縁神獣鏡の中では最大の大きさを測る。欠損のない完形品で、铸上りや保存状態も良好である。内区には銘・獣文帯を配し、「天王」七か所、「日月」一か所の計八つの銘文を配する。四乳の間に神像四体と獣像四体を求心式に交互に配する。「四神四獣」型式で、神像は東王父を表現する。  
同范鏡は岡山県岡山市湯迫車塚古墳、奈良県広陵町新山古墳から出土している。(森井)

重要文化財

「吾作」銘三角縁獣文帯四神四獣鏡  
(六号鏡) 一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

六号鏡は直径二〇・〇センチメートルを測り、三角縁神獣鏡の中では小さく、石塚山古墳出土鏡の中でも最も小さい鏡である。採集時から約三分の一を欠損しており最も残存率が低い鏡であるが、重要文化財指定に伴い完形に復元している。内区には銘帯を配し、「吾作明竟甚大工上有王喬及赤松獅子天鹿其(義龍天下銘好世隻)^(八)」内は他古墳出土同范鏡の銘文から補足と書かれている。四乳の間に神像四体と獣像四体を求心式に交互に配する。「四神四獣」型式で、神像は東王父と西王母を表現する。  
同范鏡は広島県広島市中小田1号墳、兵庫県神戸市西求女塚古墳、大阪府枚方市万年寺山古墳、京都府木津川市椿井大塚山古墳、奈良県天理市黒塚古墳から出土している。(森井)

重要文化財

三角縁獣文帯八神四獣鏡  
(七号鏡) 一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

七号鏡は直径二一・八センチメートルを測り、欠損のない完形品で保存状態も良好である。内区には銘・獣文帯を配し、「日」「月」の文字を交互に三か所ずつ、計六か所と鳥・魚・獣像が配される。四乳の間に神像八体と獣像四体を求心式に配する。「八神四獣」型式である。  
同范鏡は愛知県愛西市奥津社古墳から出土している。(森井)



3

重要文化財

三角縁獣文帯三神三獸鏡（一号鏡、二号鏡） 各一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

一号鏡は直径二二・四センチメートルを測り、寛政八年（一七九六）発見時は七片に割れていたものを修理の際に接合している。欠損部がなく完形に復元されている。  
二号鏡は一号鏡と同范で、直径は同じく二二・四センチメートルを測る。発見時には八片に割れた状態で採集されたが、昭和六十二年（一九八七）の調査で本鏡の欠損部の一部が出土し、寛政八年に採集された遺物が石塚山古墳主体部からの出土である事を裏付ける証拠となった。一部欠損部があり、修理時に補われている。  
鏡背の内区に神像三体と獣像三体を交互に配す「三神三獸」型式で、神は「東王父」、獣はほぼ同形である。内区の銘・獣文帯には「天王日月」の四字を配する。  
同范鏡は石塚山古墳一号鏡の他、京都府木津川市椿井大塚山古墳、福岡県筑紫野市原口古墳、福岡市天神ノ森古墳、大分県宇佐市赤塚古墳から出土している。（森井）

重要文化財

三角縁獣文帯三神三獸鏡（三号鏡） 一面

苅田町石塚山古墳出土  
古墳時代・三世紀  
福岡・宇原神社所蔵

三号鏡は一号、二号鏡とほぼ同大で直径二二・四センチメートルを測る。五片に割れた形で採集され、一部を欠損するが修理時に完形に復元されている。内区の銘・獣文帯には「日日日全」の四字を配する。鏡背の内区は六乳で神像三体と獣像三体を交互に配す「三神三獸」型式。神像は「東王父」、獣はほぼ同形である。  
本鏡の同范鏡は現在の所確認されていない。（森井）



## 赤塚古墳（国指定史跡、大分県宇佐市）

赤塚古墳は大分県宇佐市大字高森に所在し、駅館川右岸の台地上標高約三〇メートルの位置に築造されている。戦時中の土取りにより後円部の南側三分の一程度が削平されたが、前方後円墳の墳形は良く留めている。前方部を南西に向ける全長五七・五メートルを測る前方後円墳で、埴輪などの外部装飾は認められない。大正十年（一九二二）に内部主体の箱式石棺が発掘され、三角縁神獸鏡の他、碧玉製管玉や鉄刀、鉄斧などが出土した。

国指定史跡「川部・高森古墳群」中に現存する六基の前方後円墳の内、最初に築造された古墳で、その後の免ヶ平古墳から鶴見古墳へと連なる宇佐地域の歴代首長墓の最初の一基である。現在は川部・高森古墳群を含む「大分県立宇佐風土記の丘」として史跡公園化され、整備が行われ公開されている。（森井）

### 重要文化財

#### 三角縁神獸文帯三神三獸鏡

五面のうち 二面

大分県宇佐市赤塚古墳出土

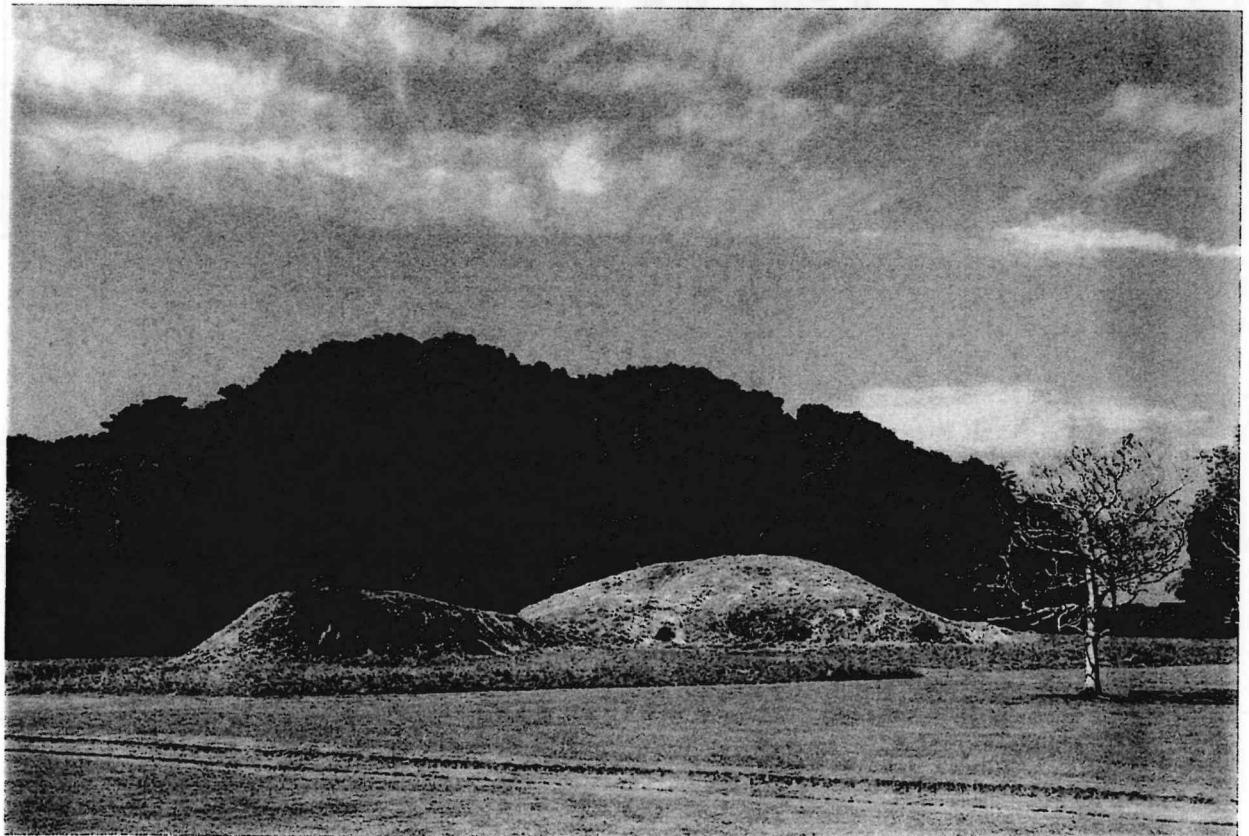
古墳時代・三世紀

京都・京都国立博物館所蔵

赤塚古墳の箱式石棺から出土した三角縁神獸鏡の内、二面である。いずれも径二二センチメートル超を測る、三角縁神獸鏡としては平均的な大きさの資料である。鏡背の内区に神像三体と獸像三体を交互に配す「三神三獸」型式で、神は「東王父」、獸はほぼ同形である。内区の銘・獸文帯には「天王日月」の四字を配する。

A鏡は石塚山古墳出土三角縁神獸文帯三神三獸鏡の同范鏡であり、他に京都府木津川市椿井大塚山古墳、福岡県筑紫野市原口古墳、福岡市天神ノ森古墳から出土している。

B鏡の同范鏡は三重県松坂市筒野古墳、滋賀県栗東市岡山古墳、伝京都府向日市物集女付近から出土している。（森井）



大分県宇佐市赤塚古墳

